

洛央小学校の発掘調査

—現地見学会資料—

1992年11月15日（日）

（財）京都市埋蔵文化財研究所

遺跡名：烏丸綾小路遺跡、平安京左京五条四坊二町跡

所在地：下京区仏光寺通東洞院東入仏光寺西町、西前町、神明町

調査期間：1992年7月1日～継続中

調査面積：約1300㎡

1 発掘調査の経過 洛央小学校の建設地（旧豊園小学校跡地）は、弥生時代の烏丸綾小路遺跡、平安時代の平安京左京五条四坊二町跡などの遺跡に属しています。このため今年の7月から建設工事に先立って埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。調査はこれまでに江戸時代から室町時代の遺構調査を終え、現在は鎌倉時代の遺構面を調査中です。これを終わると次に下層の平安時代から弥生時代へと進みます。このように調査はまだ途中の段階ですが一区切りするこの機会を利用して成果の一部を紹介いたします。

2 調査地の歴史 調査地は弥生時代中期から古墳時代後期の「烏丸綾小路遺跡」東端にあたります。この遺跡は集落を中心とする大きな遺跡であり、下層遺構の調査で何がみつかるのか期待されます。

延暦十三年（794年）、平安京が造営されますと調査地周辺の綾小路通・高倉通・仏光寺通・東洞院通で囲まれた場所は「平安京左京五条四坊二町」と呼ばれるようになります。この呼び方は条坊制という古代都城の区画制度にもとづく地名表示です。

平安京は朱雀大路によって西を右京、東を左京に分けられ、大路や小路によってさらに細かく碁盤の目のように区画して造営されました。平安京の条坊制は一辺約120mの正方形を区画の基本単位としています。これを町といいます。町は小路によって区画されながら16町集まってひとつの大きな区画になります。そしてこの大きな一区画は南北方向では条、東西方向では坊という単位で表わし、それぞれ大路によって区画していました。（資料1）

それでは「平安京左京五条四坊二町」の様子はどのようなものだったのでしょうか。残念ながら文献の記録があまり残っていないので多くのことはわか

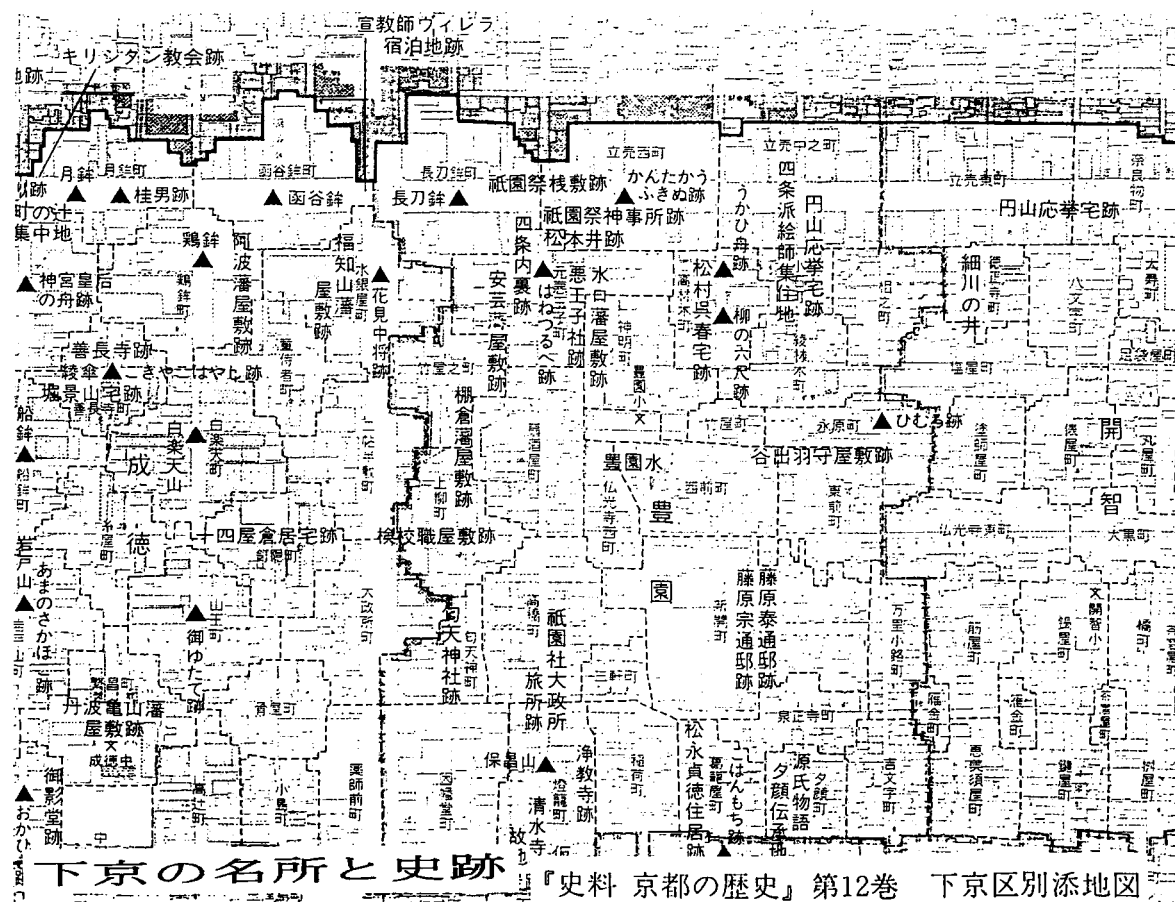
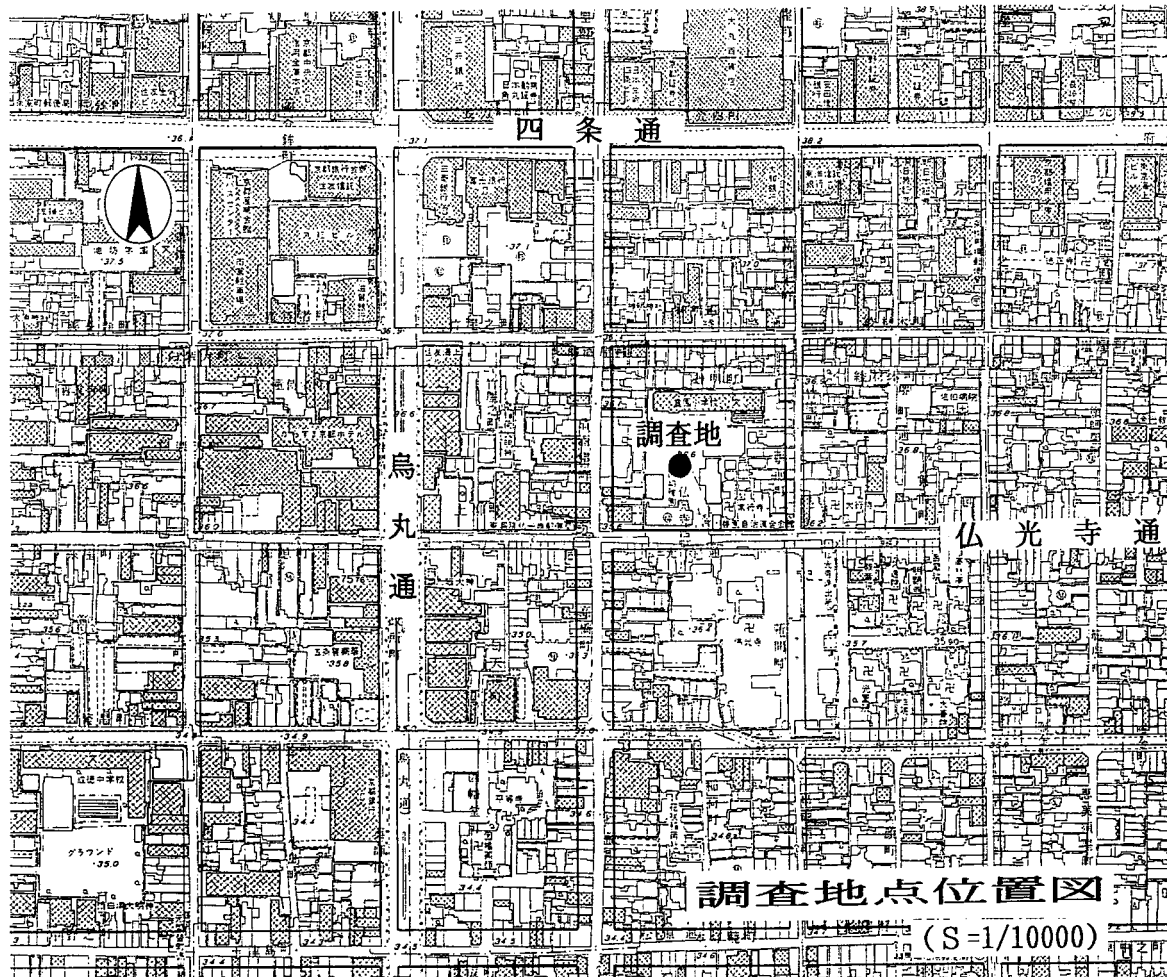
りませんが、平安時代後期（11～12世紀）、鳥羽離宮の造営に富裕な財力を誇った中流貴族である高階泰仲（やましなやすなか）の邸宅地であったとされています。また、鎌倉時代には藤原公明（ふじわらきみあき）の邸宅が建っていたともされていますが、正確なことはわかっていません。

そののち、室町時代の初めの頃には土倉（どそう）や酒屋・油屋などが建ち並んでいたようですが、この町並みは応仁の乱によって焼かれてしまいます。十年にも及ぶ戦乱が静まると、やがて町衆によって町並みは復興され、町組が結成されていきます。町衆はなおも続く放火や略奪を避けるために町の周囲に堀や土塁をめぐらせ、木戸門（きどもん）や櫓（やぐら）を設けて「構（かまえ）」という防御設備を築き自衛しました。この二町は下京の異組（たつみぐみ）に属していたことが文献からうかがえます。（資料2）

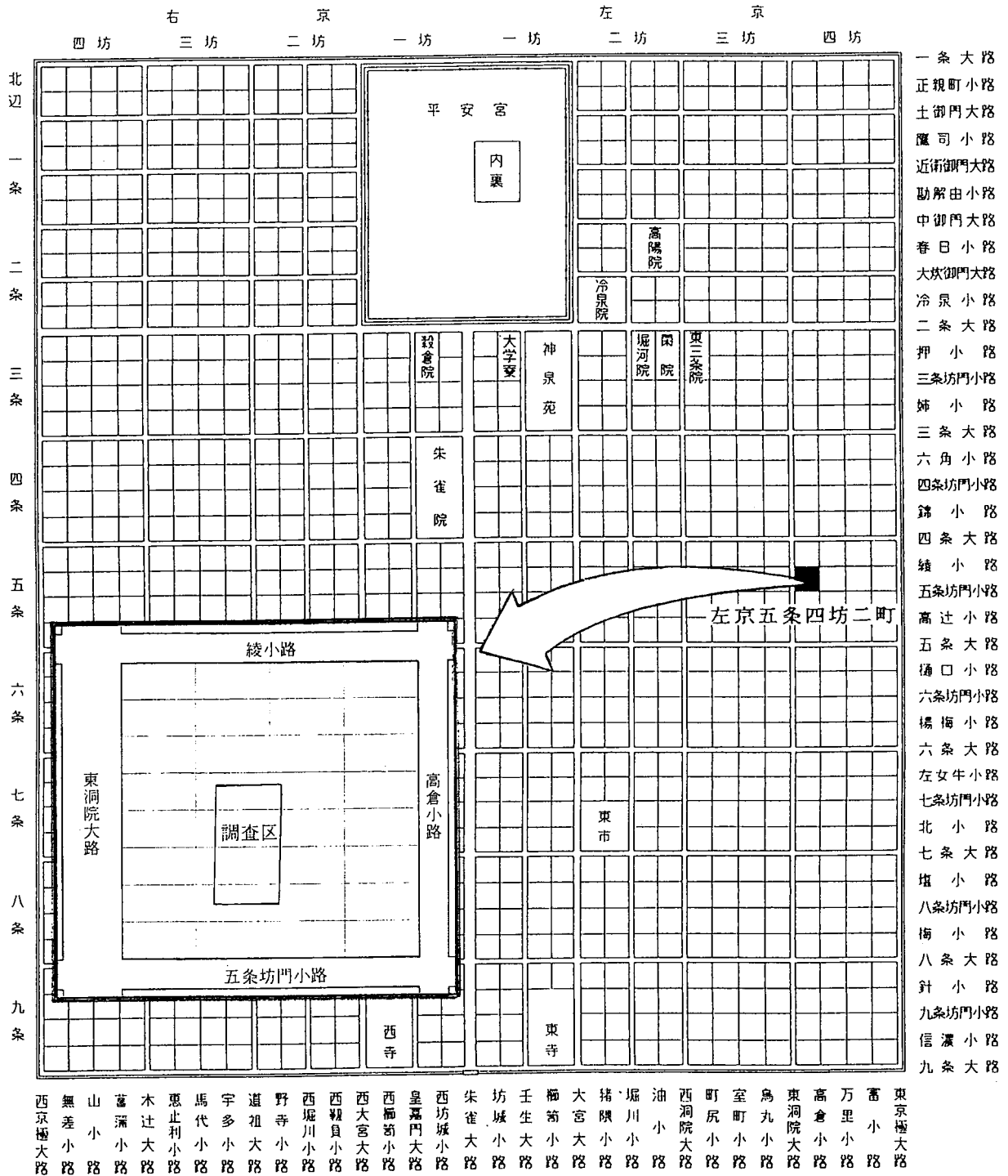
さらに時代を下って桃山時代になりますと調査地の南側では秀吉の別邸である竜臥城（りゅうがじょう）があったといわれています。旧豊園小学校の名前の由来がここにあります。天正十四年（1586年）、秀吉は方広寺大仏殿を築くためこの別邸を代替地として東山渋谷にあった仏光寺を現在の場所に移します。調査地も明治時代に豊園小学校が建つまでは仏光寺門前町の町並みで賑わっていたのだらうと思います。

3 発掘調査の成果 調査ではこれまでに江戸時代の瓦積み井戸や石室（いしむろ）、室町時代の地業（じぎょう）の跡、鎌倉時代の石組み井戸のほか溝や土壇（どこう）など多くの遺構を検出しましたが、まず第一番目に上げられる成果は、室町時代の大きな堀（溝1-3）が見つかったことです。堀は幅約6.5m、深さ約2.0mの規模をもち、長さ約48mにわたって残りの良い状態で調査区中央をやや弓なりに縦断して検出されました。遺物の時代と遺構の規模、文献史料などから「構」の堀であると考えています。この堀は江戸時代には細い溝（溝1-2）に姿をかえて残っていました。これだけ良好な状態でしかもこのように広い面積を調査した例はほかになく、今後とも「構」の堀を調査するうえで貴重な記録を得たといえるでしょう。（資料3・4）

現在、江戸時代から鎌倉時代までの出土遺物が整理箱にして約780箱あります。土器・瓦・木製品・金属製品・石製品・土製品など各種の遺物が出土していますが、最も多いのは土器で土師器（はじき）・須恵器（すえき）・瓦器（がき）・灰釉（かいゆう）陶器・焼締め（やきしめ）陶器などのほか様々な陶磁器類です。なかには中国や朝鮮から輸入された陶磁器もあり注目されています。

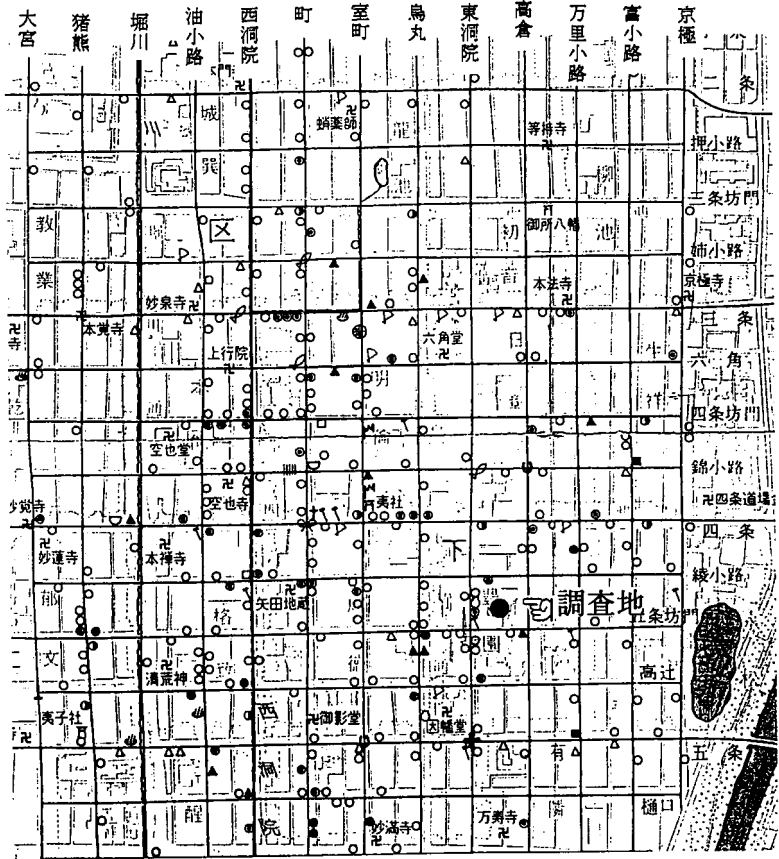


平安京条坊图



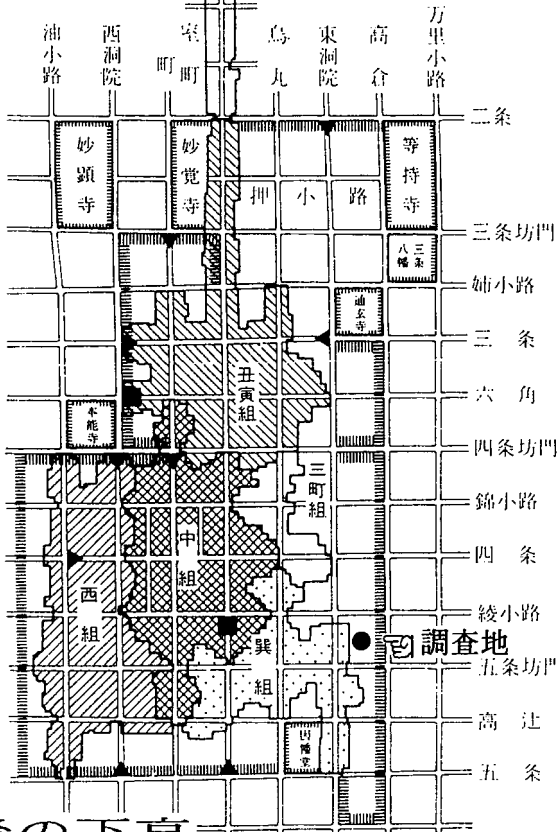
調査区条坊位置图

- | | | | | |
|---|----------|---|---|--------|
| ⊐ | 神 | 社 | □ | 紙すき・紙屋 |
| ⊐ | 寺 | 院 | △ | 材木屋 |
| ○ | 酒屋 (酒造業) | | ノ | 大工・番匠 |
| ○ | 土倉・替屋 | | ■ | 塗師 |
| ◎ | 油屋 | | | 畳・座 |
| ⊕ | 米座 | | ⌒ | 鼠手 |
| ● | みそ屋 | | ✂ | 繰組 |
| ⊙ | 魚屋・魚市 | | U | 伯耆 |
| ∪ | 茶葉 | | ∩ | 風呂 |
| ∪ | 屏風 | | + | 頰城 |
| ⊓ | 絵所 | | V | 髪剃 |
| ⊓ | 仏所 | | ○ | 匠師 |
| ⊓ | 刀鍛冶・武器製造 | | ☆ | 陰陽師 |
| ▲ | 綿屋 | | — | 当時の道路 |



応仁の乱以前の 下京

(『京都の歴史』第3巻 学芸書林 1968を調整)



- | | |
|---|--------|
| ▶ | 木戸門 |
| ■ | 櫓 |
| | 構の堀・土塀 |

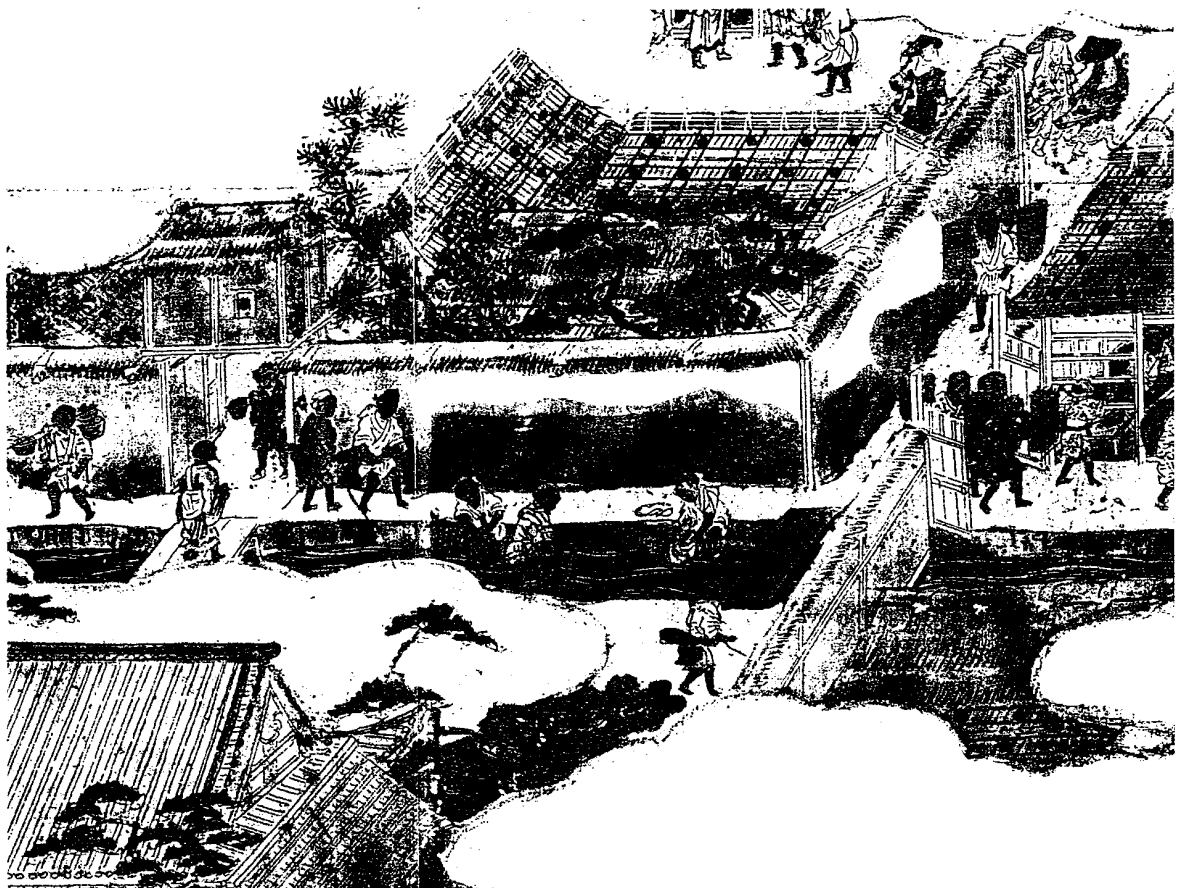
応仁の乱以後の 下京

(高橋康夫 『洛中洛外 環境文化の中世史』 平凡社 1988を調整)



三条通粟田口の釘貫

道の中央に板扉が開き両側には土塀がのびる。米俵を担いで西に向う人物は、三条烏丸の米場にむかうものか。
 (『洛中洛外図大観 上杉家本』 小学館 1987)



西洞院通六角から蛸薬師の櫓と釘貫

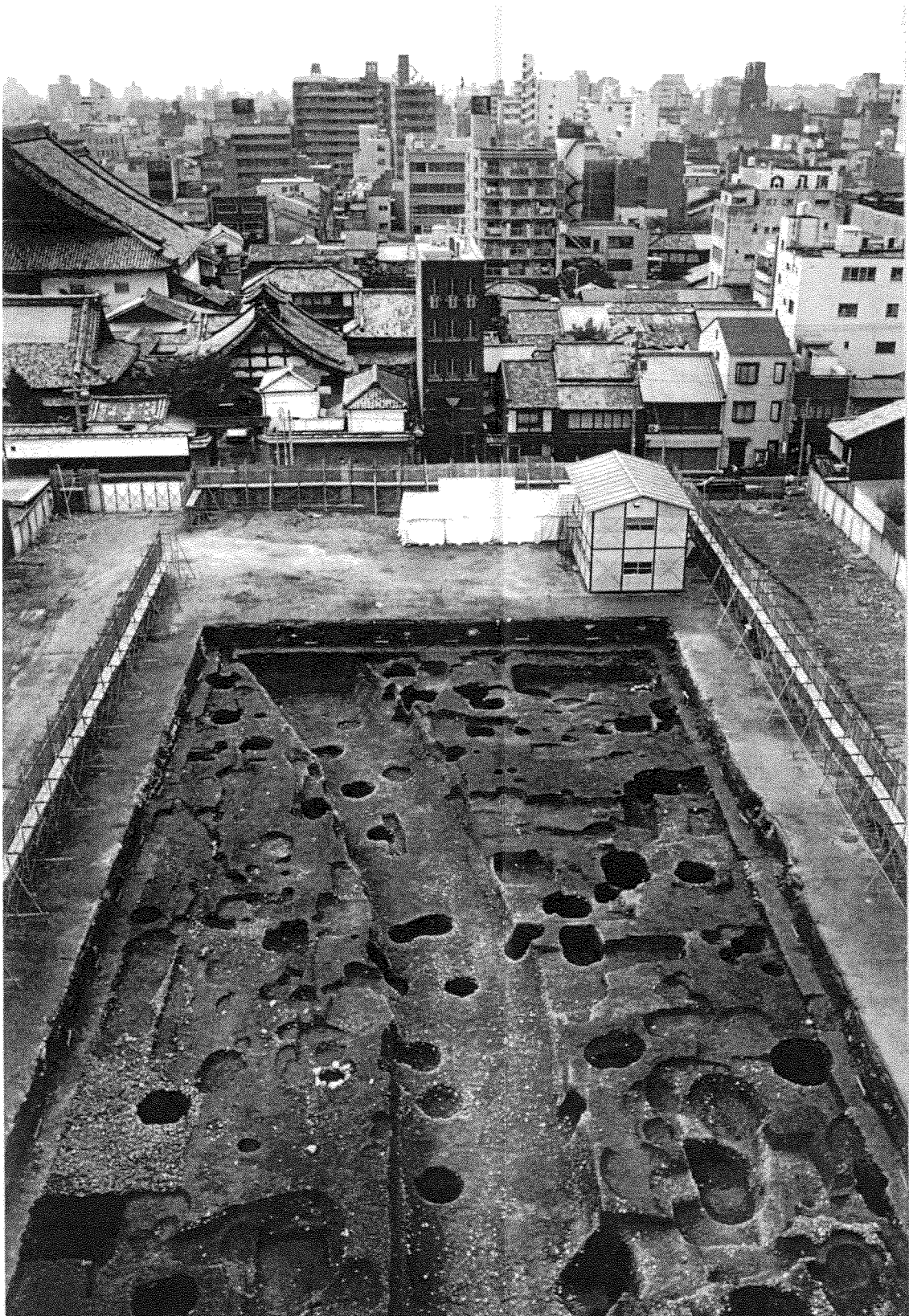
六角通には板扉の上に櫓をかまえる。蛸薬師通の南側には川の上まで土塀が作られている。手前の屋根は本能寺。
 (『洛中洛外図大観 上杉家本』 小学館 1987)



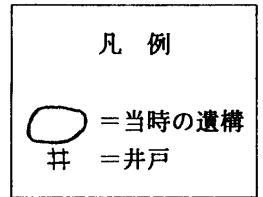
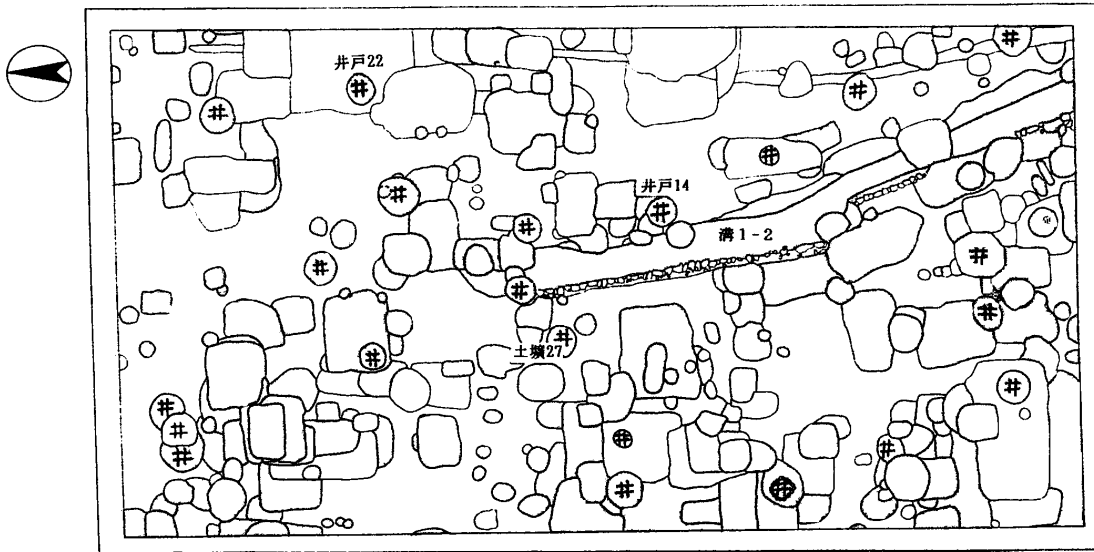
第1面 江戸時代の遺構群(北から)



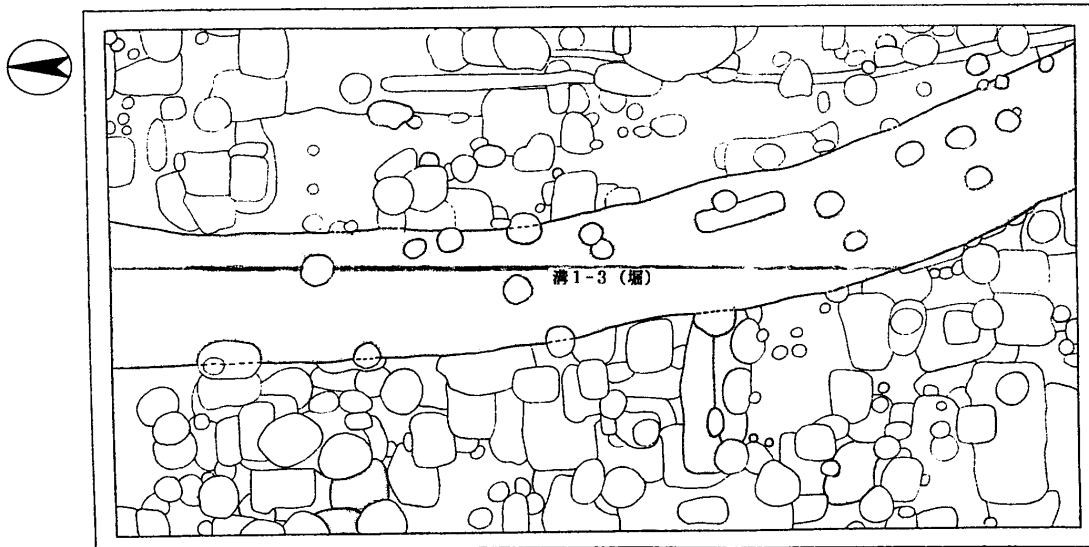
室町時代の「構」の堀(北から)



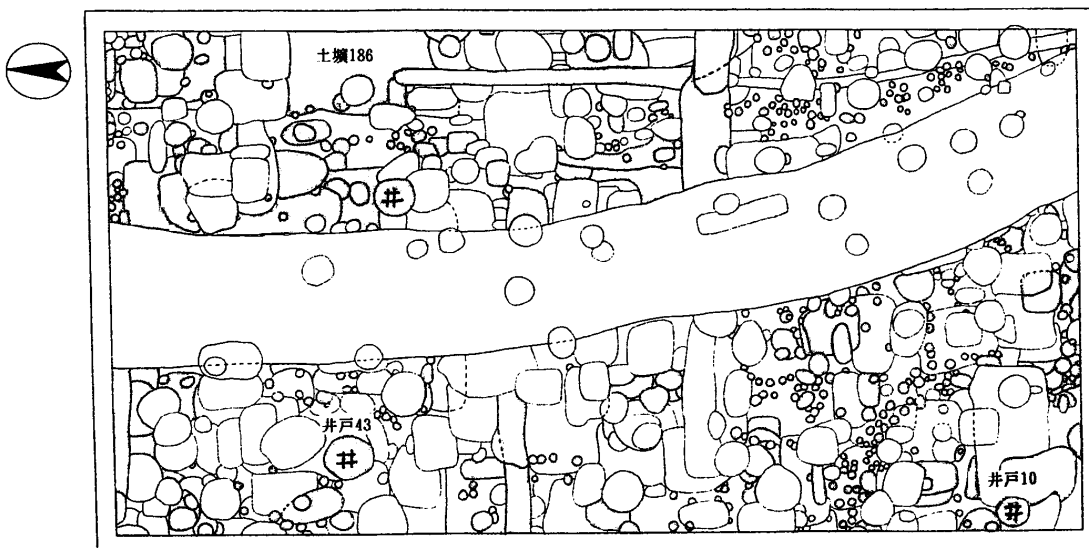
第2面 室町時代(後半)全景(北から)



第1面 江戸時代



第2面 室町時代(後半)



第3面 室町時代(前半)
～鎌倉時代

検出遺構略測図 (S=1/300)

